

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800612	
法人名	ヒューマンライフケア株式会社	
事業所名	ヒューマンライフケア市川真間グループホーム	
所在地	千葉県市川市真間5-15-13	
自己評価作成日	令6年2月11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	令6年2月18日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援に取り組んでおり、出来ることは継続して行ってもらうことをすすめている。介護度が進むにつれてトイレに座ることができなくなる傾向がありますが、出来る限りトイレに座り排泄促す、立ち上がりを一部介助で行えるようにする。などといったことを行っています。生活への参加として、食器拭きや洗濯物量みなど積極的に参加してもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ヒューマンライフケア市川真間グループホーム」は、小規模多機能施設が併設されており、医療面の相談・助言・対応等で協力を得ている。開設時からコロナ禍により、地域との交流ができない状況が続いていた。その中にありながら、日常の散歩や施設内イベントの充実化に努めると共に、特別食・手作りおやつ・テイクアウトを活用する等、できることやうれしいことを取入れながら、心身共に豊かになれる共同生活の提供を目指している。医療支援には特に力を入れており、内科医による往診頻度が高く、入居者ひとり一人の適切な健康管理や医療支援に繋げている。その他にも、医療機関とは急変時・緊急時の協力や状況変化に応じた的確な支援と共に、重度化・終末期の対応方針の共有を図る等、施設が対応し得る最大の支援に向けチームで取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型としての地域の行事等に参加する様になってきた。	「その人の今までの歴史を大切に、その人らしくいられる処を目指します」という施設理念を掲げていると共に、法人理念・運営方針と共に、施設内に掲示し、職員全員で意識共有を図っている。また、新人研修及び現任研修に加え、ミーティング時に理念の意識づけがなされており、理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	包括主催の地域の高齢者イベントに参加。地域のお祭りや子供イベントに参加する様になった。	日頃から散歩時の近隣住民との挨拶や声掛けが行われており、地域とのつながりを大切にしている。また、真間北部自治会に加入しており、自治会主催のお祭りやハロウィンパーティーに参加する等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的にアンケートを行い、サービスや取り組みへの理解、意見徴収を行っている	地域包括支援センター職員・家族・施設職員等を構成員として、2か月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点や報告など定期的に行政との連絡を取っている	市の担当者とは、定期的に業務上の相談・報告等を行っていると共に、運営推進会議を通して、日頃から協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行えている	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備している。また年2回の内部研修の実施や研修資料の回覧を通じて、身体拘束排除における意義を全職員が理解している。また、3か月に1回、身体拘束廃止を検討する委員会を開催しており、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行えている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時研修やマニュアルを用いて定期的に不明点については話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来てはいる	面会や電話連絡を通して、家族の意見や要望を確認している。また、運営推進会議への家族参加者が多く、意見や要望を伝える機会となっている。挙げた意見・要望においては、会議や申し送り時に周知・検討を行い、適切な対応に努めている。	以前は定期的に「真間新聞」を発行し、写真入りで施設の活動状況等を家族に伝えていたが、現在は休刊となっている。コロナ5壘になったことを機に、入居者の施設での暮らしを伝える方法を検討し、家族の安心と信頼関係構築に繋がる事に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各月のミーティングで確認し反映している	定期的にユニット毎及び全体のフロアミーティングを開催し、職員の意見や提案等を確認している。会議開催においては、事前に職員に議題についてのアンケートを取っており、会議の効率化及び、意見が言いやすいよう配慮している。年2回、職員の自己評価作成の下、管理者による個人面談が実施されており、職場環境の整備や人事考課に活かされている。その他、PCを活用した業務管理を行っており、職員の業務負担の軽減や情報共有に繋げている。	今回の職員アンケートにおいて、人員不足を訴える声が全職員から挙がっている。職員の入退社が多く、現在は職員の補充ができていないとの事だが、引き続き人材の確保に努めて頂き、労働環境を整える取組を望みたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、目標面談を実施		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関りは少ない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ている		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている	家族による医療受診・外出・一時帰宅が行われており、家族関係継続を支援している。また、移動販売車や訪問美容等の活用を通して、地域との繋がりを大切にしている。現在、家族との面会については、予約制で時間が決められているが、今後は状況を踏まえながら、段階的に制限を緩和していく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ている	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も情報把握に努めており、会議等での検討や確認を行う等、現状に即した支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている	本人や家族の意向を配慮した上で検討会議を行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師からの意見確認も行っており、現状に即した支援内容となっている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は不足している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている	定期的に内科の往診を実施しており、入居者の受診希望が多いことから、医師がほぼ毎日来所し、状況に応じた医療を受けられるよう支援している。また、必要時に歯科医による往診も行われている。希望の医療機関の受診については、家族と職員が連携しながら支援しており、医療面の情報共有を図っている。その他にも、週1回、訪問看護を導入し、健康管理・医療処置・相談等が行っており、入居者や家族の安心に繋げている。その他にも、希望に応じて訪問マッサージを実施し、心身機能の維持・回復を目指している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ている	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族の意向確認の上、同意を得ている。また、訪問看護導入に加え、状況変化に応じて、協力病院の医師と24時間連絡が取れる体制を整備しており、状況に応じた適切な医療支援に繋げている。看取り支援については、看取りプランに沿って対応しており、身心状況に応じた柔軟な対応に努めると共に、家族や医療機関と連携し、入居者が安心と納得が得られた終末期支援を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制は不足	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、年2回、消防署にオンライン申請を行った上で、自主消防避難訓練を行っている。訓練では、火災や夜間を想定した訓練・通報訓練・消火器訓練等を実施しており、避難や対応方法を身に付けている。また、小規模多機能事業所が実施するAED研修に参加する等、実際の場面でいかなる技術の取得に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている	プライバシー保護や接遇に関する研修を実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修や会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援を心掛け、その人らしい生活の実現に向け、取り組んでいる。	

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている	食事の準備、調理、片付けは、入居者の希望と能力を活かしながら職員と共同で行っている。食材や献立は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、行事食・特別食・手作りおやつ・お弁当のテイクアウト活用する等、食の楽しみを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている	排泄状況を記録しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。また、日頃から、食事・水分の配慮や食事前後の体操の実施により、便秘解消に努めている。必要に応じて医師と相談しながら、入居者一人ひとりに応じた排便コントロールを行っている。その他にも、併設の小規模多機能施設の看護師とは排泄に関わる助言や相談を通して、連携を図っている。		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない	入浴は週2回実施していると共に、必要に応じて、清拭・シャワー浴を行い、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否の入居者に対しては、声掛けや対応を工夫する等、ひとり一人に配慮した入浴支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ明けより外出を再開している	日常的に散歩や敷地内の外気浴等の実施により、入居者の気分転換や生活の活性化を図っている。また、週1回移動販売車が来所しており、買い物を通じた外出支援が行われており、入居者から好評を得ている。室内活動の充実化に力を入れており、季節毎のレクリエーション・体操・誕生会等、入居者の気分転換や心身の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はなし		

【千葉県】ヒューマンライフケア市川真間グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は個人で使用できるのであれば支援するが、ほとんどが使えない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境が整備されている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具やテレビ・写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活出来るよう配慮されている。また、布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。鍵が設置されており、プライバシーの確保に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	やや出来ている		